

びわこ文化公園植物だより〔β 版〕

## ウツギ アジサイ科

学名 *Deutzia crenata*

・花期： 5～7 月

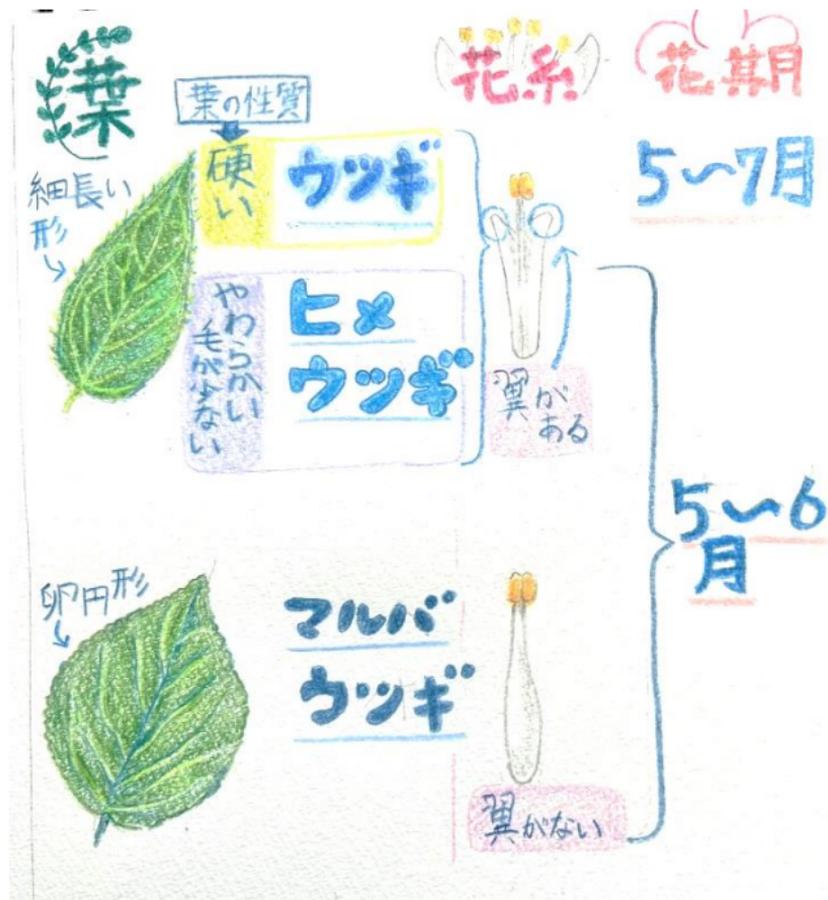


5月に気温が35℃越え…梅雨入りが発表…など今年  
は季節の移り変わりが早く感じられますね。こんな  
にも移り変わりが早いと、私たち人間は変化について  
いく事で精一杯。季節を楽しむ隙が少なくなったよう  
に感じてしまいます。

しかし、植物たちは四季に合わせて花を咲かし、私たちに季節を教えてください。ウツギもその一つです。ウツギが咲くと私たちは初夏を感じることができます。

ウツギは落葉低木の一ชนิดで、北海道南部から九州の山野の明るい場所に多く生息しています。花期は5~7月で白い花弁が5枚ある鐘形の花を咲かせます。別名「卯の花」とも呼ばれ、4月の和風月名の「卯月」の由来となっています。

由来としては茎や枝が空洞であることから空木(ウツギ)と呼ばれています。そのためそのような特徴を持つ樹木は総じてウツギと呼んでいます。ベニウツギ、ツクバネウツギなどもウツギという名がついていますが、これらの種はスイカズラ科に分類されています。このように茎や枝の特徴によって名づけられたために、多種多様な見た目であるウツギ達ですが、その中でもウツギにそっくりな種として、マルバウツギとヒメウツギなどが挙げられます。上記の3種は細かい違いがいくつかありますが、葉の形、花糸(雄しべの糸状の部分)、花期で区別できます。



↑ウツギに似た種の違い

ウツギの花は栃木県、茨城県、岩手県などで田畑の境木として植えられたこともあり、古くから稲作の指標として農家の方と生活を共にしてきました。例えば、

「ウツギの花が満開のときが田植えに一番よい。その時期からずれると稲に虫がつく。」

などのように田植えの時期の基準として考えられてきました。

確かにウツギに花や蕾は真っ白なお米が沢山あるように見えますね。もしかしたら指標としてだけでなく、豊作を予期するものとして取り扱われていたのかもしれない。



↑下から花を撮影したウツギ。つぼみが  
ご飯粒っぽい…？

また稲作だけでなく、関東、東北南部、四国地方などではウツギの開花に合わせて、小豆や大豆蒔いたと言いつたされています。その他にもトウモロコシの植える時期やサクラマスの遡上時期を予測するものとしてもウツギの開花は扱われていました。

また、ウツギが雅な植物として扱われ、俳句や歌で扱われている事もあります。

佐々木信綱作詞の「夏は来ぬ」では、初夏の到来を表す植物として1、5番の歌詞で扱われています。

また、枕草子では、枕草子九九段で清少納言がほととぎすの鳴き声を聞きに行った折に、ウノハナが咲いているのを見て、その枝を折って牛車に飾ったという節があります。この時、清少納言はウノハナで埋め尽くされた牛車をみて大喜びし、和歌を詠むことさえも忘れてしまったと示されています。

5月は季節の変化だけでなく、やっと新しい生活に慣れてきて、これからどんどん忙しくなっていく時期でもあります。そのような時だからこそ、一度落ち着い

て自然の移り変わりに目を向け喜んだり、癒されたりできる気持ちの余裕を持っていたいと感じます。

 ウツギは [ここ](#) で見ることができます。

(参考文献)

林 将之、小学館のフィールド・ガイドシリーズ『葉で見分ける樹木 増補改訂版、2021/5/31、株式会社 小学館

長谷川哲雄、『森のさんぽ図鑑』、2014/3/10、築地書館株式会社

林弥栄、『新装版 樹木見分けのポイント図鑑』、2014/9/9、株式会社講談社

野本寛一、『自然暦と環境口誦の世界』、2021/4/20、有限会社大河書房

斎藤たま、『暮らしのなかの植物』、2013/12/25、論創社

清少納言、山野 浩一、『枕草子 上』、2017/7/10、筑摩書房

(龍谷大学 先端理工学部 環境生態工学課程  
栞原萌葉)